

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

## 1. 認証の概要と重要性

大塚 玲朗 (経済産業省)

<http://www.y-adagio.com/public/committees/std/confs/std18/std18-1.pdf>

### 1Q1.

認証には取らされるものという側面があることはある意味正しいと思いますが、安全な製品をお客様に提供することがメーカーの使命であり、通常売っている製品にたまたまその国で認証制度がある場合に対応しているというスタンスではないかと思えます。

### 1Q2

認証を当初から意識しているような新製品はないのでしょうか。

### 1A2.

特に意識はされていないと思えます。

### 1Q3.

安全分野の規格でデファクトでということはあるのでしょうか。

### 1A3.

ある企業の特別な規格をというものではないと考えています。技術的な規格であれば、認証規格の技術的な要点に組み込めるかどうか一つの鍵になります。

### 1Q4.

太陽電池の認証サービスを提供しておりますが、試験設備についてトレーサブルな校正を取らなければなりません。例えば ILAC の認定取得機関であれば、どこで取っても同じであると考え良いでしょうか。

### 1A4.

基本的にはどこで取っても同じとなります。しかし、例えばアメリカ国内であれば、試験所を監査する監査員にとって、アメリカの認定機関の方は知名度があるため、アメリカの認定機関からの認定が望ましいと言われる場合があります。

### 1Q5.

内需ということであれば、第三者監査で良いのではないかと思います。海外でのビジネスということであれば、その場所で認証を立ち上げた方が良いのではないのでしょうか。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

1A5

海外にということになると言語の問題と、試験品の搬出等の点で困難な場合があるのではないかと考えられます。

1Q6.

デファクトである場合は別として、海外ビジネスを行う場合には、デジュールが必要になると思います。国としてはどう考えているのでしょうか？

1A7.

デジュールが必要になると思います。試験・認証については相互承認等を活用することによって日本で試験・認証結果が通用すると考えています。

1Q8.

当時私がパナソニックにいたころは取られているという意識が強くありました。今回のお話の中で、認証と規格を考えることが商売につながるということを示されたことは、新鮮であると思います。それがうまくいっているかどうかを表す指標のようなものがあるのでしょうか。

1A8.

認証と標準化という青本を準備しているが、まだ数字的な指標を作成するまでには至っていません。

1Q9

例えば、ブルーレイディスクは、日本の企業が中心となって他の企業と協力し認証も含めてスキームが作られています。ビジネス面での評価も企業内では十分されていると思います。本日の最後に講演が行われる抗菌協会のお話も、業界として適合性評価に取り組んでいる点では参考になるものと思われる。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

## 2. 北米の認証制度の歴史的背景と現状

郡 泰道 (UL Japan)

<http://www.y-adagio.com/public/committees/std/conf/std18/std18-2.pdf>

### 2Q1.

民間の会社が認証を行うということは、なかなか難しいと思うのですが、ULはなぜアメリカで受け入れられたのでしょうか。

### 2A1.

法律にはあまり書かれていない部分は、民間でカバーする必要があったと思います。また、保険会社からの要求があり、保険金支払いの判断基準としてニーズがありました。新しい製品が出るたびにULが規格をつくってきたという歴史的な実績が積みあがり、それとともにULの規格が浸透していったのだと思います。

最近では、米国国土安全保障省の後押しを受けて作成したサイバーセキュリティ規格を今年2月に発表しました。米国では、とりえず決まり事を作っていきたいというのがベースにあります。

### 2A1(補足).

米国では、民間が責任をもって作成した規格を政府が採用するというスタンスがあります。日本でも同様なスタンスが根付いていくことを期待しています。

### 2Q2.

規格を作成するのに保険会社から資金提供など支援はありますか。保険会社とULとの関係はずっと続いているのでしょうか。

### 2A2.

最近ULの規格と保険との関係はほとんどなくなってきました。UL認証をとっていないと保険料が安くないというようなことはありません。

### 2Q3.

規格を作成する場合、その提案のきっかけにはどのようなものがあるのでしょうか。

### 2A3.

規格の提案には、外部からによるものとUL内部からによるものがあります。UL内部からの提案は、新技術の普及を予測し規格化に取り組むものです。

### 2Q4.

事例として示されたホバークラフトでは、6か月もかからなかったとおっしゃいましたが、かなり短期間で規格がされたと思います。平均的な作成期間なのでしょうか。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

**2A4.**

ホバークラフトの事例は、かなり短いほうです。規格の提案をうけ、ドラフトを吟味し、最終的に投票にかけて初めて規格になります(資料27ページ参照)。UL内部で新しい技術の規格を提案するときは、上級エンジニアがドラフトを作成するのですが、発行までに1~2年かかることがあります。

**2Q5.**

ULではたくさんの弁護士を内部に抱えていらっしゃる聞いたことがありますが、どのような役割をされているのでしょうか。

**2A5.**

普通の会社よりは多いかもしれませんが、そんなに多いとは思っていません。また、弁護士が多いからと言って、ULが関係する訴訟が多いというわけではありません。ビジネスをやっていく上での法務、規格を有用するための法務を行っています。

**2Q6.**

ULのブランド認知度はかなり高いものがあります。聞くところによるとディズニーと組んで子供向けの安全教育を行っているとのことですが、きっかけはどのようなことからでしょうか。

**2A6.**

ディズニーとはずいぶん前からコラボレーションしています。一部ディズニーワールドでの展示ブースは最近なくなりましたが、学校や幼稚園に行って子供たちへ安全について教えるなど安全啓蒙は継続しています。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

### 3. 製品認証の実際

津布子 泰和 (ソニー)

<http://www.y-adagio.com/public/committees/std/conf/std18/std18-3.pdf>

#### 3Q1.

EMCの評価技術者認定制度があるということですが、どのような制度でしょうか。

#### 3A1.

社内にEMCテストサイトを持っており、専門部署が管轄しております。その部署が設計者への教育を行っています。設計者により試験結果にばらつきが出ないよう、試験方法のやり方などについて指導しています。

#### 3Q2.

他国の規制について評価するのに”Position Paper”を作成しているとのことでした。これはいつ見直すようにされているのでしょうか。

#### 3A2.

”Position Paper”には、ごく基本的なことが記されているため、いつ見直すかについては規定がありません。他国の規制で大きな変更があったときに、その規制を評価するとともに、その手法がより適切な手法となる場合には見直すことがあるかもしれません。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

#### 4. 抗菌製品技術協議会の自己認証制度－製品信頼性のために

藤本 嘉明 (抗菌製品技術協議会)

<http://www.y-adagio.com/public/committees/std/confs/std18/std18-4.pdf>

##### 4Q1

菌には抗生物質へ耐性を持つものが出てくることがあり、その菌に対しては抗生物質の効果が薄れてしまいます。抗菌性能の再現性だけでなく、耐抗菌剤性をもつ菌への対応は何かされているのでしょうか。

##### 4A1.

抗菌剤に細菌が抵抗性を持つ可能性はあると考えられますが、いまのところ、無機系抗菌剤については耐性を持つ可能性が低いと言われています。

##### 4Q2.

抗菌性能の保証を表示する SIAA マークにたくさん種類があるようですが、どのように使い分けられているのでしょうか。

##### 4A2.

JIS Z2801 (ISO 22196 と同等)により抗菌試験を行い合格したものは SIAA マークの下に”ISO 22196”を表示しています。しかし、SIAA が認めている JIS 以外の試験法、例えばシェーク法などで合格した場合は、”ISO 22196”のないマークを表示しています。抗菌以外の性能を持つ製品、たとえば防カビ加工製品には”防カビ加工”などと表示することになっています。また、抗菌と防カビの両方の性能を持つものもあり、そうした表示が必要になります。

##### 4Q3.

ISO の表示だと ISO だけの認証に見えてしまうのですが。

##### 4A3.

そのように受け取られるかもしれませんが、このマークが表示された製品では、抗菌性能基準だけでなく安全性基準も満たしていることとなります(資料5項(3)参照)。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

#### 5. パネルディスカッション 全講師(モデレータ:和泉 章(製品技術評価基盤機構))

(パネルディスカッション資料(11p) 参照)

本日の講演では、政策当局、認証機関、企業、団体のそれぞれの立場から認証への取り組みについてお話をいただいたと思います。パネルディスカッションでは、以下のテーマについて、それぞれの立場からの見方、取り組みについて意見を伺いたいと思います。

##### 5-1Q1 認証のタイプの違いや海外と日本とでの有効性の違いについて

(パネルディスカッション資料(11p) 参照)

適合性評価には、認証のほかにも自己適合宣言や、取引先からの二者監査もあります。具体的にどのように使い分けられているのか。そのなかでの認証の優位点は何か、について伺いたいと思います。また、認定を受けた認証と、認定を受けていない認証で有効性に違いはあるか。さらに、認証の有効性について日本と海外とでは違いはあるのか、についてもご意見をいただければと思います。

##### 5-1A1.

繊維は別の団体で評価を行っていますが、そちらの団体は”認定”を受けて認証を行っています。しかしながら、SIAA は認定を受けておりませんが、いまのところ認定の有無による違いは感じておりません。ただ、海外でどのような認証の仕組みにすべきかは検討課題です。

##### 5-1A2.

メーカーにとって、認証と自己宣言には選択の余地はありません。安全性要求の高いものは認証を要求されますし、安全性要求がそれほど高くないものは自己宣言でよいと思います。ビジネス的にはなるべく自己宣言になるように力を注いでいます。

##### 5-1A3.

一定の信用が必要であれば認証が必要だと思います。たとえば、購買者自身が認証を行っていて、購買者が認証作業をさばききれない場合に第三者認証機関に依頼をする、などということもあります。購買者の事情や希望による、というケースもあります。

##### 5-1A4.

規制による認証と任意認証の2つに分けて考える必要があります。規制によるものは、第三者認証か自己宣言かを政府が決め、規制によらないものは、認証機関マークのブランドが欲しいかどうかなのだと思います。また、規制による場合は、政府による認定が必要であり、規制によらない場合の認定の要否は認証機関のブランドを高めるのに必要かどうかになるのではないのでしょうか。

##### 5-1C4.

適合性評価の効力や効果は、誰が主導するのか誰が必要とするのかで変わるのかもしれませんが。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

#### 5-2Q1 認証に関わる人の人材育成について

(パネルディスカッション資料(11p) 参照)

認証は標準を活用する手段とも言えるので、両者は一体不可分な関係にあります。標準化を推進する者と、認証を担当する者とはどのような連携をしているのでしょうか。また、どうあるべきと考えられますでしょうか。

#### 5-2A.

ビジネスモデルとして見る必要があると思います。標準化から認証まで一貫して考えられる人が望ましいのではないのでしょうか。

#### 5-2A.

海外の仕組みも含めて整理できる人材が必要ではないのでしょうか。認証の使い方の一つに、海外では認証が始まってすぐに認証取得するケースがあります。認証のインパクトやブランドをうまく活用しようとするものです。

このように各立場で認証を戦略的に使ってもらえるとよいと思います。

ULの中では、標準化に関わる人と認証に関わる人は組織上分かれています。標準化は非営利的な活動、認証は営利的な活動を行っているからです。

#### 5-2A.

弊社の製品認証に関連して言えば、標準化に関わる人と認証に関わる人は組織的には同じところにいます。先にお話ししましたが、ロビイング方針が決められ、それに従ってそれぞれが活動しています。ただし、技術的な標準化は、技術に関連するそれぞれの部門で行っています。

#### 5-2A.

抗菌製品技術協議会では、標準化については専門家がいる専門委員会で試験規格を整備してきました。認証の仕組みの整備を進めてきたのは別の委員会です。この2つの委員会は、それぞれ関連する事項や業務の中で情報交換をし、連携しています。国際標準に関しては、特別な知識が必要となりますので、日本規格協会の国際標準関連プログラムなどを受講するなどで知識を吸収しています。



第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

### 5-3 会場参加者との Q&A

#### 5-3Q1.

抗菌認証の国際組織についてですが、認証の仕組みを作り上げていくうえで、国際標準のように1国が1票しかもたないと、日本で関連企業が200社いようと、日本が主導していくことが難しくなるのではないのでしょうか。

#### 5-3A1

国際組織の理事会では、企業会員数に応じて国別の理事数を決めるなどの工夫が必要だと思われる。

#### 5-3Q2.

認証と標準化の人材について、皆様にお伺いしたいと思います。認証では決まったことに従ってきちんとやる人が向いていると思います。一方で、標準化ではアイデアを持っている人のほうが向いていると思います。標準化から認証をビジネスモデルとして考えていくとき、標準化と認証のそれぞれについて人の向き不向きというのをどのようにお考えでしょうか。

#### 5-3A2.

認証人材は規格作りにも目を向けたほうが良いと思います。そのためには、人脈作りが大切になると思います。

#### 5-3A2.

確かに、規格に従って認証を行うという伝統的なタイプの人はいます。一方でビジネス開発マネージャは逆の資質を持っています。そうした伝統的な人たちを、開発マネージャのような資質を持つように彼らを変えていく必要があると考えています。たとえば、第三者の立場で認証をすることで、ユーザの役に立つようにやっていきたいというように。

#### 5-3A2.

認証を流れにそってやる人は、むしろ少ないと思います。弊社においてはビジネスが重要ですので、弊社/業界に有利な形で認証制度改正のアプローチをやっていくことを考えていると思います。そのために、現地の販売会社の人は規制当局等との人脈作りや工業会活動等、アクティブにやっています。弊社にとっては、決められた日程の沿った製品の販売開始が最も重要な達成事項なのです。

#### 5-3A2.

認証可否の判断は基準に従って厳密に行っていますが、基準にない新しい試験方法で試験結果が出されてきたとき、それを受け入れて基準自体の見直しまで行うかどうかは個人だけでなく組織の柔軟性が重要になってくると思います。

第18回国際標準化教育研究会(2016-08-26 金沢工業大学 虎ノ門キャンパス 11F1111 教室)

テーマ:認証と国際標準 Q&A

**5-3Q3.**

新しい試験方法を受け入れるというのは、人材の問題というよりもマネジメントの問題ではないでしょうか。いまでも認証には保険との関係があるのではないかと思います。つまり、ビジネス戦略として有効であるから受け入れているということではないでしょうか。

**5-3A3.**

流通業者に SIAA マークをつけていない製品は売らないでほしいと申し入れたことがありますが、うまく浸透していません。しかし、現実として性能や安全性に不安な製品がまだまだあります。流通業者との連携を探っていきたいと思います。

## パネルディスカッション資料

### 講演のサマリと問題点

- 日本とアメリカでは、「伝統的に」認証に対するイメージが大きく異なる

日本：政府当局が技術基準を策定し、民間は「認証はやらざるを得ないもの」的認識があるか

米国：民間の策定した標準に対する民間の認証が普及（政府もそれを規制に活用）

- 世界各国規制においても、IECなど民間の策定した標準の採用や、IECのCBレポート等民間の試験結果の活用が進展

新興国：新たな規制導入の際の民間規格、試験結果活用促進

欧州：ニューアプローチ（規制の技術基準は欧州標準化機関（民間）の策定した標準を引用）

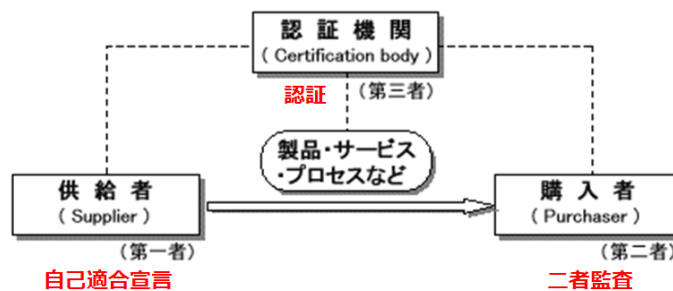
日本：規制法の技術基準の性能規定化

- 抗菌など高機能について客観的に評価する民間団体による認証（適合性評価）制度も普及



標準化との関連・連携を含め認証（適合性評価）に対する認識をさらに高める必要があるのではないか

1. 適合性評価には、認証のほかにも自己適合宣言や二者監査もあるが、どのように使い分けているのか。認証の優位点は何か。（例えばコスト・時間 vs 取引先・消費者からの受容性）  
また、認定を受けた認証と、認定を受けていない認証で有効性に違いはあるのか。日本と海外各国で違いがあるか。



(出所：経済産業省)

2. 認証（適合性評価）は標準を活用する手段であり、両者は一体不可分な関係にある。

標準化（特に国際標準化）を進める者と、認証（適合性評価）を担当する者はどのように連携しているのか、あるいはすべきか。その際、人材育成の観点から留意すべき点は何か。